

寄宿舍の生活

「ただいま」「おかえり」、放課後になると寄宿舍はにぎやかになります。おやつを食べたら今日は何をしようか、一番にお風呂に入るのは誰かなど、他愛の無い会話が続きます。寄宿舍生活の始まりです。

寄宿舍はご飯を食べたり、お風呂に入ったりし、もちろん夜は寝るところです。いわゆる日常生活が主な活動になります。そう言う、寄宿舍は家庭の代わりと思われる方もいるかも知れませんが、決してそうではありません。教育の場です。

家庭ではもしかすると自由にテレビを見ることができる子どもも、寄宿舍ではいつでも自分の好きな番組が見られるとは限りません。友達の好みが優先されることもあります。自分のことばかり考えずに他人のことも考えなくてはいいませんが、そこから他人を思いやる気持ちや我慢する力が培われます。食事の後片付けや係活動は責任感を培う助けになるでしょう。学習道具や衣類の整理整頓をしている舎生もいますが、自己管理の力が向上するかも知れません。日々の活動を通して社会に出て行くために必要な力を育てているのです。

1年を見渡せば、絵本の読み聞かせや音楽鑑賞会、七夕祭りなど楽しい行事もあります。わくわく顔で下校する舎生や、いつもよりてきぱきと荷物の片付けをする舎生の姿を見ると、当日を心待ちにしていたことが分かります。子どもたちと準備をしてきた私たち職員も嬉しくなります。

もちろん、ご家庭でもその家の決まりがあり、お手伝いなどを子どもにさせている方もいると思います。コンサートやスポーツ観戦に出かけるご家庭もあるでしょう。それでも、家庭と寄宿舍では子どもたちが感じる、学ぶことは全く同じではないと思います。家庭、学校、寄宿舍にはそれぞれの持ち味があり、それぞれの味がバランス良く混ざり合いおいしい味になると、子どもたちはより大きく成長するのだと思います。

「いってきまーす」「いってらっしゃい」、朝、学校の先生方が迎えに来ると、寄宿舍から学校生活へと子どもたちのスイッチが切り替わります。

（寮務主任・高橋麻矢子）



「絵本の読み聞かせ会」の様子です。